



みなさんの暮らしとつながっています。

Vol.82

令和8年(2026年)

9月1日発行

# はまだ 議会だより

## 主な 記事

◆ 6月定例会議の報告…………… 2～9  
◆ 附帯決議のその後の対応…………… 10

◆ 市民対談  
子どもの声を大切に…………… 12・13  
するまちへ〈浜田のまちの縁側〉





令和8年

# 6月定例会議



今回はこれが  
ポイント！



## 「道の駅」ゆうひパーク浜田 無償貸付可決

6 月定例会議では、市長提出議案12件、議会提出議案1件について審議しました。

今回の注目議案は、「道の駅」ゆうひパーク浜田の施設を民間事業者へ無償貸付する議案です。民間のノウハウを生かし、施設の魅力向上や利用者サービスの充実、地域経済の活性化を図ることを目的としています。

また、一般会計補正予算(第2号)は約3億3,805万円

を追加。主な内容は、物価高対策としてプレミアム付「はまだ応援チケット」(第5弾)の追加発行(約2億859万円)、水道未普及地域等物価高騰対策事業(約172万円)、中東情勢の緊迫化に伴うごみ袋作成経費(約4,841万円)です。

このほか、消防ポンプ自動車・小型動力ポンプ付軽積載車の取得や条例改正などについても審議し、それぞれ議決しました。

## 6月定例会議 Topics 01

### 「ゆうひパーク浜田」 再出発へ

浜田市の観光や地域振興の拠点である「ゆうひパーク浜田」について、新たな運営事業者への15年無償貸し付けが決まりました。施設の再生に向けて、コンビニエンスストアの導入や地元産品の販売充実、イベント開催など、新たな運営計画が提案されます。一方で、私有財産を長期間無償で貸し付けることへの考え方や公共性についても議論が交わされました。本会議では、それぞれの立場から慎重に審議した結果、議案を可決しました。今後の活性化も期待する一方、契約条件の履行状況や施設運営について、市と議会が継続して確認していきます。

**問** なぜ15年間？  
**答** 事業者が安心して設備投資やテナント誘致に取り組めるよう、長期の貸付期間を設けました。

**問** どのような議論？  
**答** 施設の再生への期待がある一方、15年間の無償貸し付けの妥当性や公共性について、様々な意見が交わされました。

**問** どんな施設？  
**答** コンビニの導入や地元

産品の充実、イベント開催等、道の駅としての魅力向上を目指す計画。市民や観光客が利用しやすい施設を目指します。

**問** 計画通り進まない場合は？  
**答** 毎年、運営状況や事業計画の実施状況を確認します。必要に応じて事業者と協議し改善を求めるとしています。

**問** 再出発はいつ頃？

**答** 営業開始に向けた準備が進められます。テナント確保など契約条件を満たした後、新たな運営が始まる予定です。市が計画の進捗を確認し、条件が満たされたことを確認した後に営業開始。新たなにぎわい創出に期待します。

委員会否決後、本会議で可決。



# プレミアム付「はまだ応援チケット」 発行事業を可決

物価高騰が続く中、市民生活や地域経済を支えるため、プレミアム付商品券を発行する事業を実施する補正予算が可決されました。

この事業は、家計の負担軽減と市内での消費喚起を目的として実施されるもので、商品券を利用することで、お得に買い物ができる仕組みです。また、市内事業者の売上向上にもつながることが期待されています。

議会では、

❖市民に広く行き渡る制度となつていく

❖より多くの市内店舗が参加できる仕組みになつていく

❖効果的な周知方法や利用しやすい制度設計になつていく

❖一時的な支援だけでなく、地域経済の継続的な活性化につながる

といった点を中心に議論が行われました。

議会は、物価高騰に苦しむ市民や事業者への支援が必要であるとの認識のもと、事業の効果が最大限発揮されるよう、適切な運営と十分な周知を市に求めました。

問 物価高の中、所得の低い世帯や高齢者など、本当に支援が必要な市民へ公平に行き渡る制度設計になつていくのか？

答 すべての市民の家計を支援するため、市内在住の全世帯を対象に販売する。1次販売期間中は、希望する全ての世帯が上限数を確実に購入できるように、売り切れのない十分な冊数を用意し、公平性を確保する。

問 大型店ばかりに消費が集中せず、より多くの市内小規模店舗が無理なく参加できるような仕組みや、手続きの簡素化は考えているのか？

答 商品券をすべての取扱店で使える「共通券」と、市内に本店がある店舗限定の「地元応援券」に分け、地域へ確実に消費が回る仕組みとする。登録手続きの簡素化や手数料軽減により、店舗の参加を促していく。

問 デジタル決済が増える中、スマートフォンでの操作が苦手な高齢者が取り残されないための配慮と周知方法は？

答 誰もが安心して利用できるよう「紙の商品券」での販売を基本とする。購入券は「広報はまだ」の折込などを活用して全世帯へ確実に届け、購入場所も市内の郵便局など身近な窓口を多く確保する。

問 一時的な消費喚起にとどまらず、地元店舗へのリピーター定着など、地域経済の「継続的な活性化」につながるための戦略は？

答 プレミアム分が呼び水となり、額面以上の消費が市に回る大きな経済効果が期待できる。これを機に地元店舗のファンが増えるよう、各商店街や事業者の独自セールなどと連動した支援を検討していく。



## 議案等の賛否の公開



6月定例会議で賛否が分かれた議案は以下のとおりです。各議員の賛否や、請願、陳情審査結果などの詳細は、市議会ホームページをご覧ください。

令和8年 6月定例会議

市長提出議案 12件 議会提出議案 1件

| 議案番号等  | 議 案 名 等                    | 賛成 | 反 対 |
|--------|----------------------------|----|-----|
| 議案第44号 | 財産の無償貸付について(「道の駅」ゆうひパーク浜田) | 15 | 6   |

※請願の賛否については浜田市議会のホームページにて確認ください。



浜田市議会HP

## 請願・陳情について審査しました

請願 22件、陳情 3件

結果は浜田市議会ホームページからご確認ください▶



浜田市議会HP

HAMADA

# 市政を問う

21人が個人一般質問



6月  
個人一般質問一覧  
◀ 動画

(一般質問の発言順に掲載しています)

西田 清久

## 都市と地方は 人口をシェアする 時代に入った



動画

**Q** 関係人口創出拡大戦略について、今後の見通しは。

**A** 関係人口の「数」を追う段階から「関わりの質と主体性」を高める仕組みづくりへ転換していく。

**Q** 二地域居住促進については。

**A** ニーズを聞き、資源を活かして柔軟に対応できる受け皿づくりを進める。

**Q** 浜田を巣立った若者との継続的な接点づくりの手法は。

**A** 「浜っ子LINEクラブ」や「浜田応援団」に登録し、PRや課題解決協力で接点維持に努める。

**Q** 石見神楽を創り出したまちとして神楽ファン全国ネットワークを立ち上げては。

**A** 有効な手法の一つとして認識。「夜神楽公演」や都市部での神楽公演を継続し、魅力発信に取り組む。

村木 勝也

## 避難所停電対策 — L Pガス式発電機 順次導入



動画

**Q** 指定避難所における停電対策の現状は。

**A** 現在、ガソリン式を中心に計78台の発電機を配備している。

**Q** 今後の整備方針は。

**A** ガソリンは長期備蓄や災害時の調達に課題があるため、既存機の更新時期に合わせてLPガス式発電機へ順次転換する。

**Q** LPガス式へ更新するメリットは。

**A** 燃料が劣化せず管理も容易なLPガス発電機は、72時間の連続運転が可能で中山間地域の電源確保に有効。停電時も照明や冷暖房を稼働できるため、避難所での熱中症や低体温症のリスクを軽減し、避難者の安全を直接守ることにつながる。

足立 豪

## 福祉と学びの 再構築



動画

**Q** 社会福祉協議会への人件費補助は、附帯決議で根拠と効果の明確化が求められたが、基金を取崩す経営のままでよいか。

**A** 社会福祉協議会の赤字体質脱却を伴走しながら指導助言する。

**Q** 赤字要因の介護保険事業を根本的に見直す考えは。

**A** 最長3年を目途に廃止し、可能な限り早期に対応する。

**Q** 出生数急減により小規模校化が進む中、適正な学びの場を守るため学校統廃合を前倒しできないか。

**A** 現計画の完了を待たず、新たな学校統合計画に前倒しで着手する。

《その他の質問項目》

・社会福祉協議会の会費値上げ

## 笹田 卓

浜田漁港を核とした  
水産業再生への挑戦

動画

**Q** 浜田漁港の水揚量や漁業生産額が減少する中どのような将来像を描き、水産業振興を進めるのか。

**A** ㈱三陽の進出や冷凍冷蔵施設整備を契機として関係者と連携しながら漁港の将来像を検討する。県外船誘致などを進め、水揚量の確保と地域経済の活性化を図る。

**Q** 将来像の実現に向け、誰が責任を持って取り組むのか。また、漁業者や事業者の所得向上に向けた戦略をどのように進めるのか。

**A** 市長としてリーダーシップを発揮し、水産業振興を進める。ブランド化や販路開拓、輸出促進に取組、水産物の付加価値向上と所得向上を図る。

## 《その他の質問項目》

・副市長・教育長の市政運営に対する考え方

## 串崎 利行

小規模農家の  
支援は

動画

**Q** 小規模農家が地域を支えているが、支援はあるのか。

**A** 機械整備支援事業、畦畔草刈作業安全対策事業、農用地保全事業などを用意している。

**Q** 小規模農家は、暮らしや文化地域基盤であり、効率や規模の経済とは異なる強さ豊かさがある。小規模農家を守る対象ではなく、地域農業の基盤として支援するべきだ。

**A** 小規模農家の存在は、認定農業者などの担い手と同様に、地域を維持するうえで重要な役割を果たしていると認識している。今後も継続的に支援に取り組む。

## 《その他の質問項目》

・91農業について  
・ドローンの許可可手続  
・フードツーリズム

## 岡山 令子

市民と一体となった  
まちづくりを目指して

動画

**Q** メンタルヘルス施策について市内の連携体制はどのようになっているのか。また、今後どのように取り組みを強化していくのか。

**A** 市内では連携の仕組みがある。市としても心の健康は大切であると考えているので、今後も重点目標として取り組んでいく。

**Q** カスタマーハラスメント防止条例は被害者保護にとどまるのか、啓発、教育までを視野に入れているのか。

**A** 被害者保護にとどまることなく、市民の意識変容に繋がるよう、啓発、教育も含め条例を策定する。

**Q** 自主防災組織が目指すべき防災力の到達目標を定めているか。

**A** 現在は具体的な到達目標を設けていないが、自主防災組織の状況を把握する中で次に何をしていけばよいか示せるよう各団体にアプローチしていく。

## 《その他の質問項目》

・子どもたちの体験格差の是正と地域外研修支援

## 大谷 学

シンボルとして県史跡  
浜田城の整備を

動画

**Q** 昭和42年の周遊道路整備時に二ノ門付近を破壊。その原因は。

**A** 当時、市内の連携不足で文化財の認識を持っていなかったため。

**Q** 石垣は崩れたままに見えるが。

**A** 破壊前の様相にまで復元した。

**Q** 米子城や月山富田城は樹木を伐採し城内外からの眺望を回復させて観光客が増えている。浜田城も同様な対応で整備すべきでは。

**A** ほぼ全域が保安林であるため現状では難しい。国指定史跡に向け整備基本計画を策定したい。

## 《その他の質問項目》

・映画口ケ効果の最大化  
・職業選択の幅を広げる理数教育の重要性  
・県外中学校への進学  
・中央図書館の課題  
・横断歩道の白線補修

沖田 真治

再エネ推進と  
浜田ゴルフリンクス  
廃止の損失



動画

**Q** ゴルフ場廃止による地域への影響をどう認識しているのか。

**A** 令和6年の利用者は約34,000人、従業員約30人であり、転用されれば皆減となる。食材納入や利用者の市外流出など地域経済への影響は大きいと認識している。

**Q** 計画によるメリットは何か。

**A** 固定資産税収入や工事需要が見込まれる。一方で飲食や宿泊等の地域経済への波及効果の縮小も懸念され効果は限定的と認識している。

**Q** 住民との対立や将来の行政負担と再エネ推進との均衡をどう考えるのか。

**A** 市は再生可能エネルギーの推進は必要であるが災害や設備撤去など将来の行政負担を防ぐため事業者責任の明確化や制度の構築に取り組む必要があると考える。

今田 実延

教員の  
処遇改善に向けて



動画

**Q** 教員の時間外勤務の実態は。

**A** 令和7年度は、小学校31時間、中学校約45時間であり、減少傾向であるものの、依然として時間外勤務が多い。

**Q** 教員の精神疾患による休職状況は。

**A** 島根県内における公立学校の精神疾患による休職者数は、令和2年度が36人、令和6年度は38人となっている。本市においても、教員のメンタルヘルス対策は大きな課題であると認識している。

《その他の質問項目》

- ・市役所職員の多数の退職に伴う体制整備と今後の行政運営
- ・イラン情勢における市への影響

遠藤 祐之

令和7年度  
市職員大量退職と  
危機管理は



動画

**Q** 退職者の退職理由の把握状況は。

**A** 他業種への挑戦、家庭の事情のほか職場等のストレスを挙げる声もあり、把握に努めている。本音まで深く把握することには限界がある。

**Q** 影響力のある立場からのハラスメントは。

**A** 社会的影響力のある立場や職務上の優位性を背景とした、業務の適正な範囲を逸脱した威圧的な過度な要求は、職員の尊厳を傷つけ、心身の健康を脅かすだけでなく、行政の公正・公平な執行を妨げる極めて深刻な問題であると認識している。

**Q** 給食における地産率は。

**A** 食料納入業者26社の内、市内業者が22社で、84%を占めている。浜田産食料利用率については令和7年度で52%である。

《その他の質問項目》

- ・外部デジタル人材の戦略的活用

川神 裕司

安心の地域医療。  
福祉へ挑戦



動画

**Q** 現在、ヘルパー等介護職員やケアマネージャーが不足し、この状況が継続すると介護現場は「破綻」し多数の介護難民発生が危惧される。介護人材育成については。

**A** 将来の介護人育成のため小中学生対象に介護現場での実習先提供、「介護人材・定着対策事業補助金制度」などに加え、資格取得に対し経済的負担軽減も図っている。

**Q** DXを活用した「オンライン診療」推進の取組は。

**A** 患者の満足度、看護師研修、システムの安定性等を向上させるための取組を強化。またオンラインの活用による医療マースの実証実験視察で情報収集を行っている。

《その他の質問項目》

- ・時代の変化に対応する人事マネジメント 他

## 佐々木豊治



動画

## ゆうひパーク浜田の 新たな運営メリットは



**Q** 国の新たな財産貸付制度による運営を目指す、「ゆうひパーク浜田」について、優先交渉権者の事業者提案がなされているが、市や市民のメリットは。

**A** 市のメリットとしては運営される15年間は施設の維持管理費や修繕費は事業者の負担となり、市の財政負担が抑えられること。また、民間事業者のノウハウを活かした柔軟な施設運営が可能となることなどがある。市民のメリットは人気の飲食店誘致や産直市の充実、地元団体と連携したイベントの開催などに取り組み、にぎわい創出や利便性向上が図られることなどと考えてる。

### 《その他の質問項目》

- ・あいのりタクシーへの支援拡充
- ・市内企業への支援・助成他

## 川上幾雄



動画

## 学校統廃合に 関連した諸課題



**Q** 市としての統廃合方針について、市民から方向性が見えないとの声にどのように対応するのか。

**A** 市内全小中学校を対象に、新たな学校統廃合計画検討のため今月学校統廃合計画審議会に諮問した。

**Q** 行政として、いつ、どの段階で方針を示すのか。

**A** 令和9年度には答申を受けたいと考えているが、整理できた部分から中間答申することも検討すべきとの意見も出ている。

**Q** 市として特認校制度化をどう位置付けているのか。

**A** 子どもたちの学びの選択肢を広げるうえで、意義のある制度であるとして認識している。現在、学校統合審議会において適正配置を審議しており、特認校制度についても議論があるものと考えている。

## 花田 香



動画

## ワクチン接種 に対するリスクの情報



**Q** 新型コロナウイルスの接種実績は。

**A** 特例臨時接種から定期接種へと移行し、年々接種人数は減っている状況である。

**Q** ワクチン接種後の死亡や重篤な後遺症の状況は。

**A** 県からの報告は受けておらず、該当はない。

**Q** 個人的には、ワクチン接種後の死亡疑いや今もなお続く後遺症の情報が入っているが、副反応の相談、健康被害救済制度の申請・認定は。

**A** 認定はないが案内は適切に行っている。

**Q** 市民に対する情報提供と相談体制の充実。

**A** 科学的根拠に基づいた情報収集・提供を行う。

### 《その他の質問項目》

- ・放課後児童クラブ

## 西田 一平



動画

## 防災と観光の 基盤強化



**Q** 防災無線が聞こえにくい地域もある中、ドローンを使って、情報伝達や現場確認に生かしていく考えはあるのか。

**A** 被害状況の確認、要救助者の捜索、物資輸送などに有効とし、民間事業者と連携して対応する。

**Q** 訓練の状況と、今後どのように実用性を高めていくのか。

**A** 令和2年度に2回、令和5年度に1回、令和6年度に1回の訓練を実施しており、今後も訓練を重ね体制づくりを進める。

**Q** 観光を支える財源として宿泊税をどう考えるのか。

**A** 導入を前提にするのではなく、観光の将来像や財源、事業者の理解を踏まえながら研究する。

### 《その他の質問項目》

- ・全庁的なドローン活用の体制
- ・宿泊税の使途と制度設計

戸津川美二

市長と若手職員との  
対話の機会を

動画

**Q** 市長と職員の対話の現状は。

**A** 現場の最前線にいる若い職員と言葉を交わす対話の機会は、十分に確保できていない。未来の市政を担う若い職員が何を考え、どんな課題に直面しているのか、彼らの新鮮な発想や生の声に直接触れる機会をぜひ持ちたいと考えている。

**Q** 職員同士の対話の現状は。

**A** 政策課題を解決するためには、複数の部署が連携し、各専門性や現場の知見を持ち寄り取り組む必要がある。職員が安心して意見を述べ、立場や役職にとらわれずに率直に議論できる組織風土を築くことが、政策の質を高め、市民サービスにつながるものと考えている。

岡本正友

若者が育つ  
地域づくり

動画

**Q** 若者が「帰ってきたい」「住み続けたい」と思えるまちづくりを今後どのように進めるのか。

**A** 住宅や雇用の充実に加え、子どもたちが地域への誇りや愛着を育む教育を重視する。地域の自然・産業・文化に触れる学びを充実させ、進学や就職で市外へ出た後も、浜田と関わり続けられる仕組みづくりを進める。

**Q** 「村を育てる学力」の理念を実践するため、地域活動やスポーツ、文化活動との連携をどのように進めるのか。

**A** 学校だけでなく、地域やスポーツ・文化活動と連携し、子どもたちが主体的に参加できる仕組みづくりを進める。

**Q** 地域活動への子どもや保護者の参加が少ない。対策は。

**A** 現状を調査・分析し、参加しやすい環境づくりや活動内容の充実に努める。

小川稔宏

安心して  
働ける職場環境への  
改善を急げ

動画

**Q** 令和7年度末に管理職を含む早期退職者が多かったことによる影響は。

**A** 人員不足は市民サービスに影響が出ないよう人員配置で対応。組織運営上のリスクは後任育成と引継ぎに万全を期する。

**Q** 退職理由の把握・分析と職場環境の改善をどのように進めるのか。

**A** 面談や調査で要因の把握と分析に努め、職員が健康で長く働き続けられる環境整備につなげる。

**Q** 組織として職員を守り抜く体制が重要と考えるが市長の認識を問う。

**A** 職員を大切にすることは最優先の経営課題である。職員が負担に感じる行為は一切容認する考えはない。安心して働ける職場づくりに向け先頭に立って取り組む。

柳楽真智子

地域主体による  
防災・減災の推進を

動画

**Q** 市職員が避難所に来れない場合の、住民による避難所開設・運営などは、実際の災害時の備えとして欠かせないと考えているが。

**A** 災害時に職員が速やかに行くことが難しい場面も考えられる。避難所の開設から運営の流れが分かるお助けバッグを活用した訓練も効果があると考えている。

**Q** 防災士資格取得のための市の補助対象は地域推薦となっているが、自主的に資格取得を希望される方も、条件を付けて補助対象にできないか。

**A** 自主的に資格取得を希望される方は、防災・減災を進める上で心強い存在である。希望者も増えており、地域防災力の向上の観点から、防災士養成研修受講料等の補助対象とすることについて、補助条件など制度設計を検討する。

森谷 公昭

回覧板にラインを活用したら

**Q** 回覧板を回すのに、ラインを併用すれば、次に回すわずらわしさもなく、ゆっくり読めるのではないか。

**A** 自治会のデジタル活用については、地域の実情を踏まえ検討する。

**Q** 「ペットボトルやプラスチック容器は燃えるごみに出しても違反ではない」のではないかな。

**A** 市民に誤解が生じないよう、広報やホームページなどを通じて引き続き周知していく。



動画

芦谷 英夫

市の元気づくり英知を集めしつかり進めよ

**Q** 人口減少で危機的な状況にあり、新市長としてどう市政を進めるのか。

**A** 市の活性化に向け、地域資源をいかしその価値を高め、市民の英知を結集し取り組みたい。

**Q** ゆうひパークを生まれ変わらせ、人が集う拠点としてどう進めるのか。

**A** ゆうひパークは地域活性化の拠点として、事業者の発想を生かし賑わい施設として整備したい。

**Q** 三校跡地、駅周辺グラウンドデザインなどどう進めるのか。

**A** 駅周辺の賑わい創出に向け、拠点施設整備も含め8年度中に方向性を出したい。

《その他の質問項目》

・社会福祉協議会の体制、健康、介護予防・高齢者福祉、協働のまちづくり



動画



委員会の総意を質問！

# 委員会代表質問

## 産業建設委員会



令和6年12月定例会議以来の5回目の産業建設委員会代表質問です

質問者 村木 勝也



動画

### 重要事業の推進と委員会協議のあり方

**Q** どのような認識と判断のもとで今回の議案の提案を行ったのか。

**A** 産業建設委員会との対話を重ね計画内容の精査や修正を進めてきた。市としては、現時点では本事業計画をもって、事業実施に向けた準備が整ったものとし、市有財産無償貸付締結議案の提出を判断した。

**Q** 今後、重要な公共施設事業を進めるに当たり、委員会との情報共有のあり方は。

**A** 公共性の高い重要な施設の運営を進めるに当たっては、議会との情報共有や意思疎通が重要であると認識している。重要事業の推進にあたり、適切な時期に説明と報告をし、対話を重ねながら透明性の高い事業運営、市政運営に努める。



### 委員会代表質問

浜田市議会において令和4年6月から導入しました。個人一般質問と異なり、委員会を代表する議員が委員会の総意として質問します。3つの常任委員会の専門性を生かし、委員会の行政視察や調査・研究を踏まえた、多角的な視点からの質問ができ、より厚みのある政策提案につながる事が期待されます。

## テーマに ついて

地域井戸端会  
ページ



浜田市議会主催の地域井戸端会にご参加いただきありがとうございました。28の会場で、延べ195人の市民の皆さまの意見を伺うことができました。ご意見に対し、総括を以下のとおりお知らせします。

### 総務委員会

#### 〈テーマ〉防災と避難行動計画

総務委員会では、現在調査研究を進めている「防災と避難行動計画」についてご意見を伺ったところ、各地域における自主防災組織の活動状況や実際の避難行動における課題、市の防災対策に対する様々なご意見やアイデア等をいただき、大変参考になりました。

各地域では、避難訓練の実施や要支援者の見守りなど様々な取組が行われている一方で、組織の高齢化や担い手不足、訓練のマンネリ化といった課題や過疎地域など地

### 文教厚生委員会

#### 〈テーマ〉子どもや高齢者の暮らしの困りごと

地域井戸端会では、子どもや高齢者の暮らしに関する多くの意見をいただきました。特に高齢者の移動手段については、免許返納後の通院や買い物への不安、バス停までの移動、敬老乗車券やあいのりタクシーなどの利用しにくさが課題として挙げられました。子どもに関しては、少子化による遊びや

### 産業建設委員会

#### 〈テーマ〉100年先に残したい浜田の食

ボベ飯、鯖のいり焼き、おまん寿司、鯖寿司、角ずし、みりん干し、赤天、フキ、タケノコ、米、いちじく、ぶどう、手作り味噌、鮎、うなぎなど、浜田の海・山・川の恵みに支えられた多くの食が挙げられました。

多くの郷土食や地域産品が挙げられた一方で、それらを支える生産現場や担い手、自然環境を守らなければ、将来へ継承していくことは難しいという意見が出されました。産業建設委員会としては、浜田の食を守る

域の実情に応じた避難計画の必要性や、マイタイムラインの普及、ハザードマップの活用促進、デジタルツールを用いた情報共有など、参考にさせていただけるようなご提案もありました。

今回いただいた多くのご意見を踏まえ、委員会として、市民の皆様が安全に避難でき、安心して過ごせる防災体制の構築に向けて協議を重ね、より実効性のある防災対策となるよう市に働きかけてまいります。

学びの機会の減少、学校統廃合や部活動地域移行への不安、放課後の居場所づくりを求める声がありました。また、高齢者の見守りや相談体制、医療・介護人材の確保なども重要な課題として受け止め、今後の委員会活動につなげてまいります。

ことは、海・山・川の資源を守ることも受けています。今後、海や山に関する事業をはじめ、地域の産業基盤を支える取組に力を入れ、浜田の食文化が100年先にも続くよう取り組んでまいります。



## 附帯決議のその後の対応

令和8年度浜田市一般会計予算に対する附帯決議として2つの予算につき議会として説明と今後の取組を求めました。

① 社会福祉協議会の収入状況の内訳（介護保険事業の大幅な赤字）、地域福祉基金の推移について、また人件費補助の状況、その補助についての積算根拠及び事業効果の明確化などが報告されました。今後、赤字業務である介護保険事業からの速やかな撤退を含む事業の整理・統合など効率的な事業運営に向けた見直しが行われました。その結果、議会として附帯決議が外され、以後、予算の執行がされる運びとなりました。

② 地域包括支援センター運営事業について運営業務委託料の増額分について以下の説明がありました。

3種12名分、課長1名分の人件費、事務員1名分の人件費、事業費・事務費が示されました。相談支援体制、地域ケア会議の運営状況及び訪問活動等の実績整理と事業評価の提出も求めましたが、適切に評価され、実績に基づく報告があがってまいりました。特に、地域包括支援センターの機能強化に向けた運営方針及び成果指標が明確化されたことで、附帯決議を外すことを議会として採決することとなり、予算の執行を行う事となりました。



### 附帯決議

議案（予算など）に対して、議会として表明する決議です。

# 地域井戸端会を 開催しました！

## 総務委員会

地域井戸端会では、様々なご意見やご提案をいただき、誠にありがとうございました。携帯電話の不感地域の解消や防災行政無線の屋外スピーカーの適切な配置、防犯カメラの増設と管理・運用の明確化、市のホームページの見やすさ改善やLINEを活用した緊急情報の通報システムの構築など、安心安全な暮らしや情報発信に関するご意見をいただき、これらは市民生活や市政運営にとって重要なことです。また、地域支え合い支援事業の要件緩和

## 文教厚生委員会

自由意見では、空き家活用や観光・地域資源の活用、歴史・文化の継承、学校教育や地域との連携、若者の定住につながる雇用づくりなど、地域の将来に向けた提案を多くいただきました。また、ごみや自治会運営、草刈りなど日常生活に関わる課題も寄せられました。

## 産業建設委員会

道路整備や支障木対策等の生活基盤に関するご意見、観光資源の活用、農林水産業の振興、地域活性化及び人口減少対策に関するご意見など、多岐にわたるご意見をいただきました。これらはいずれも、浜田市の将来に深く関わる重要な課題であると認識しております。産業建設委員会としては、インフラの維持管理と地域産業の振興、観

やまちづくり総合交付金の継続といった地域活動への支援、空き家対策と移住定住の促進、買い物支援や利用者へのタクシー助成・ライドシェアの検討など地域交通・生活支援に関するご要望もいただきました。今回いただいた多岐にわたるご意見につきましましては、総務委員会として真摯に受け止め、関係各署へ働きかけるとともに、今後の議会活動や市政への提言にしっかりと反映させてまいります。

文教厚生委員会の所管外の内容についても、関係部署や他委員会と共有し、市民の声を市政へつなげてまいります。

光を通じた交流の拡大を大切な柱とし、引き続き調査・検討を進め、将来にわたり持続可能な浜田市の実現を目指すよう執行部に求めてまいります。



## 浜田市議会ニュース まるよみ

### 地域経営のための議会改革度調査2025にて2年連続で全国第2位!!

**早** 稲田大学デモクラシー創造研究所が毎年行う議会改革度調査において、浜田市議会が2024年に続き、全国第2位という高い評価をいただきました。これは全国1,788自治体議会のうち、回答のあった1,372議会の中でのランキングです。

今回の調査では、単なる環境整備にとどまらず、戦略や計画に基づいた「地域経営に貢献する議会活動」が重視されました。浜田市議会は、特に政策力の強化分野で前年の16位から2位へと大幅に順位を上げ、総合2位の原動力となりました。

引き続き住民福祉の増進につながるよう議会の改革を進めていきます。

#### 01 政策をつくる力(政策力の強化)

全国第2位!

ここが評価! 議会で生成AIを活用。また、市の事業が正しく行われているかを厳しくチェックする「事務事業評価」を本格的に進めました。

#### 02 市民と一緒に歩む力(主権者の参画)

全国第10位!

ここが評価! 小学生が議場で浜田市の未来を提案する発表会や、市内28箇所での「地域井戸端会」、スマホで読める「議会だよりmini」など、身近な議会づくりが評価されています。

#### 03 チーム議会の底力(議会機能の強化)

全国第17位!

ここが評価! 災害時でも議会の機能を止めない「議会BCP」の策定や、オンラインでの委員会開催など、最先端の仕組みを取り入れています。

## 子どもの声を大切にすまちへ

「浜田のまちの縁側」20年の歩みと、こどもの権利条例への思い

浜田のまちの縁側 栗栖真理さん・柳川智己さん・渡部美和さん

2004年に開設された「浜田のまちの縁側」は、地域の子どもたちが安心して過ごせる居場所として20年以上活動を続けています。子どもたちが自ら遊び、人と関わりながら育つ環境づくりを地域とともに実践してきました。その20年の歩みと、現在進められている浜田市こどもの権利条例への思いについて、お話を伺いました。

【インタビューア 戸津川美二・岡山令子】

### 「ご近所力」の大切さを実感したことが始まり

「浜田のまちの縁側」はどのような思いで始められたのでしょうか。

きっかけは2000年の鳥取西部地震でした。その経験から、「ご近所力」の大切さを強く実感しました。

都市部は便利で何でも揃っているようでも、いざという時に助けてくれる人とのつながりがない。

の居場所を開いています。子どもたちが安心して集い、自分らしく過ごせる場所であることを大切にしながら、20年以上活動を続けています。

また、石見小学校と三階小学校では月2回程度「放課後あそび隊」を開催しています。子どもたちが自由に遊び、自分たちで遊びを考え、仲間と関わることを大切にしながら、地域の大人が見守っています。

現在はどのような方々が利用されていますか。

現在は三階小学校区の子どもたちを中心に、石見小学校区、松原小学校区などからも利用があります。



20年間で利用者の様子も変わりました。以前は低学年の女の子が多かったのですが、コロナ禍以降は中学年の男の子が多くなっています。利用者の8割以上が男子という日もあり、友達同士で誘い合って来る姿が多く見られます。

縁側では、宿題をしたり、本を読んだり、おしゃべりをしたり、外で遊んだり、それぞれが思い思いの時間を過ごしています。子どもたち自身が「こんなことをやってみよう」と企画することもあり、地域の大人はそれを見守り、応援しています。

## だれもが安心して自由に過ごせる居場所づくり ～子どもの権利を基盤として～

子どもたちは「浜田のまちの縁側」をどのような場所として利用していますか。

日々の関わりを通してお互いを受け止め合えるような環境を大切にしています。

子どもたちは自由に過ごせる場所として利用しています。

子どもたちが安心して過ごせる場所に共通する条件は何だと思いますか。

ただ、「自由」であること、「何をしてもいい」ということは違います。大切にしているのは、自分だけでなく、ここにいるみんな一人ひとりに自由があるということです。

自由がぶつかり合う時には、子ども自身が考え、友達と対話し、遊びや

## 子どもの声を大切にしながら 積み上げる

活動の中では、子どもたちの声をどのように受け止めていますか。

子どもの声は、言葉だけでなく、表情や態度、あそびの中にも表れます。そのすべてを子どもの声として受け止めるよう努めています。

子どもが意見を言いやすくなるためには何が必要でしょうか。

まずは大人が子どもの話をきちんと聞く姿勢を持つことだと思います。子どもが安心して気持ち

や意見を言うためには、聴く人の態度や関係、環境もとても大切です。子どもは、「すぐ決めつけられる」「どうせ聞いてもらえない」といった空気にとても敏感です。差別しない、偏見を持たない、否定しないで聴くことが大切だと思います。

「聴いてもらえる」ことが、「自分は大切にされている」と感じることにつながり、子ども自身の力になっていきます。

## こどもの権利条例への思い

浜田市では今年度よりこどもの権利条例の策定に着手しました。どのように受け止めていますか。

2021年に「はまだ一日議会」で、こどもの権利条例について提案させていた以来、多くの市議さんが子どもの権利や条例のある先進自

まちの縁側も全力で取り組みます。

条例ができることで、どのような変化を期待されていますか。

まずは、3年の策定過程でより多くの子どもと大人が「子どもの権利」について知ることです。条例は、すべての子ども

たちが自分らしく幸せに生きること、すなわち子どもの権利を実現していくための道しるべになります。理念条例で終わることなく、子ども施策や教育、まちづくりにおいて、実行性のある取り組みが定着していくことを期待します。そのためには評価検証のしくみ

も必要です。

「浜田のまちの縁側」が目指す今後の姿を教えてください。

これから子どもたちが安心して集まり、自分らしく過ごせる居場所であり続けたいと思っています。

そして、「子どもの権利」を大切にする考え方が地域全体に広がり、子どもの声を大切にする浜田市になってほしいと願っています。そのためにも、地域に根差した居場所づくりと遊びの環境づくりを、これからも一歩ずつ積み重ねていきたいと思っています。

### お話を聞いた方



▲子どもの権利についての啓発活動に使われるパペットと共に

#### ◎浜田のまちの縁側

2004年開設。放課後の子どもの居場所として、また石見小学校、三階小学校で放課後あそび隊としてあそびの場での見守り活動も行っている。子どもの権利を大切にしながらの居場所づくりを実践している。

# 活動レポート



## 文教厚生委員会

### ☑こどもの権利と 市民生活の課題を調査

課題である「こどもの権利の推進」について、条例制定に向けたスケジュールや行政視察、今後の調査の進め方を協議しました。また、地域包括支援センターの運営、日常生活自立支援事業、保育所に係る公費負担、婚姻・出生数の推移など、市民生活に直結する課題について幅広く調査を行いました。さらに、各委員が地域井戸端会に参加し、子どもや高齢者の暮らしに関する意見や要望を直接伺いました。寄せられた市民の声を委員会内で共有し、現場の実情を踏まえながら、より実効性のある所管事務調査や政策提言に具体的につなげていきます。



## 総務委員会

### ☑地域の実情から見た 防災力強化への課題

総務委員会では、「浜田市における防災力強化」を取組課題とし、市内6地区の自主防災組織を訪問してヒアリングを実施しました。

各地区では、避難訓練や防災教育、要支援者の見守り、防災資機材の整備など、それぞれの地域特性に応じた取組が行われていました。一方で、高齢化や担い手不足により活動の継続が難しくなっていることや、マイ・タイムラインの作成が十分に進んでいないことなど、共通する課題も明らかになりました。

また、継続的に活動している地域では、自治会や消防団、学校などと日頃から連携し、防災を地域づくりの一環として取り組んでいることが共通していました。

委員会では、今回のヒアリング結果を分析し、地域ごとの優れた取組を共有しながら、継続して活動できる自主防災組織のあり方について調査・検討を進め、市への実効性ある提言につなげてまいります。

## 産業建設委員会

### ☑「アジフライの聖地」松浦市への行政視察

産業建設委員会では、6月2日から3日にかけて長崎県松浦市に訪問し、「アジフライの聖地」による地域ブランド化や高度衛生管理型魚市場、くるまえび養殖、加工販売事業について調査しました。特に松浦市の地域づくり（地域創造）の原点である、「ないものねだり」ではなく「あるものさがし」のコンセプトのもと、松浦市職員の自由でユーモア溢れる発想とたゆまぬ努力でアジフライの聖地化に成功した先進事例を学ぶことができました。当市においても、「ないものねだり」ではなく、もっと浜田市の自慢できる部分を探し、目を向けていくことも重要だと感じました。





# 委 員 会

## 議会運営委員会

### 円滑な議会運営を支え 市民に開かれた 議会を目指す

議会運営委員会では、提出議案等の確認や委員会への付託先の決定をはじめ、議会運営に関わるさまざまな事項を協議しています。また、議会基本条例では、一般選挙後の新たな任期開始後に、条例の目的が達成されているかどうかを議会運営委員会で検証することとされています。このため、①政策討論会、②重要案件の意見交換会、③議員間討議、④障がいの有無にかかわらず市民が傍聴しやすい環境、⑤公聴会・参考人制度の活用などについて協議・検討を行っています。さらに、毎回の定例会議終了後には、定例会議全体を振り返り、課題や改善策を協議し、必要に応じて議会申し合わせ事項を見直すなど、円滑でより良い議会運営に努めています。

## 議会広報広聴委員会

### 膝を突き合わせて市民と対話

5月8日～28日の間の28か所の各まちづくりセンターなどで行われた地域井戸端会に195名の参加をいただき有難うございました。貴重な意見や要望は全議員で共有し、今月号のはまだ議会だよりの10ページや市議会ホームページに回答を掲載しています。

6月9日には、浜田高校で開催された課題解決型探究学習「HIRAKU」に、議会広報広聴委員会から3名が参加しました。浜田市議会のブースで高校生11名と対話し、市議会の役割や活動内容を紹介するとともに、若者に市政や議会への関心を持ってもらう方法について意見交換を行いました。対話を通じて、市議会や市政は高校生にとってまだ遠い存在であることを実感する一方、直接話すことで理解や関心が深まることも感じました。今後もこうした機会を通じて主権者教育を推進してまいります。



## 議員定数等議会活性化特別委員会

### 安心できる職場環境を目指して

現在当特別委員会が最重点で取り組む課題として、ハラスメント防止による安心して業務に専念できる職場環境づくりがあります。そして、その具体的な実施目標としてハラスメント防止条例の制定を目指し委員会で議論を重ねています。特に条例制定のための判断材料として「市職員対象ハラスメント実態調査アンケート」を全職員の協力を得ながら行うための準備に取り組んでいます。アンケートに協力いただいた職員の匿名性は完全に保護い

たします。

また議会基本条例の運用に関して、市民の皆様から出され議会が採択した「請願・陳情」の取扱いについて議論しています。採択した請願・陳情については、文書で議会から市長へ報告し、その返答を常任委員会で進捗管理・公表をするという流れを検討しています。

そして市民の関心事「定数問題」に関しては間もなく本格的な議論を行ってまいります。



## 浜田藩士の「無念の想い」を引き継ぐ美しさ

議長 澁谷 幹雄



岡山県美作市で開催された、第136回「<sup>みまさか</sup>美作浜田会慰霊祭」に参列いたしました。

幕末の「石州口の戦い」において、18代浜田藩主・松平武聰公は城を自焼して退去し、飛地であった美作の田鶴へ逃れ、そこで藩を設立しました。会津藩が徹底抗戦した一方での自焼退城には当時の世間の風当たりも強く、藩士やその家族は大変悲惨な境遇を余儀なくされたようです。

こうした先人の苦難の歴史を前に、美作の子孫の皆さんは136年もの長きにわたり毎年慰霊祭を続け、慰霊碑周辺の草刈りを行って「祖先の無念の想いを引き継いでいる」とお話ししてくださいました。「土地がなく農業ができなかったため、子孫は教員や警察官になって岡山北部の教育を支えた」「望郷の念が忘れがたく、墓石はすべて浜田の方向を向いている」という言葉に、深く胸を打たれました。

司馬遼太郎氏の名品『王城の護衛者』では会津藩主・松平容保公が描かれていますが、今回の訪問は、私にとっても浜田藩や浜田藩士に対するこれまでの認識が大きく変わる一日となりました。先人がつないできた歴史と絆を、これからも大切に守り伝えてまいります。



## ❖9月定例会議の予定

▼開 会  
9月1日(火)

▼一般質問  
9月2日(水)～9月7日(月)

※変更になる場合があります。

次回(Vol.83)は11月1日発行予定



ぜひ傍聴に  
お越しください

# はまだ議会 だより

mini



mini

も見てね!

8月1日発行の47号はご覧いただけましたでしょうか。miniはホームページにウェブ版として掲載していますので、ぜひご覧ください。

(次号は10月1日に発行予定)

## 表紙作品 紹介

浜田市世界こども美術館で開催中の「さわっ手たのしむタッチミュージアムⅡ～森と海～」にあわせて、市内小学校の児童が共同で制作したコラージュ作品です。

浜田の海の中の世界に思いを馳せて表現しました。作品は展覧会の会期中(9/27まで)館内にて展示中です。その他にも多数作品がございます。子ども達の力作をぜひご覧ください。

## 編 集 委 員

|      |        |
|------|--------|
| 委員長  | 大谷 学   |
| 副委員長 | 岡山 令子  |
| 委員   | 西田 一平  |
| 委員   | 今田 実延  |
| 委員   | 遠藤 祐之  |
| 委員   | 花田 香   |
| 委員   | 戸津川 美二 |
| 委員   | 沖田 真治  |
| 委員   | 笹田 卓   |
| 委員   | 岡本 正友  |

\*あとかぎ\*

今回、初めてあとかぎを書かせていただきました。議会での議論や活動を限られた紙面で分かりやすくお伝えすることの難しさとお気持ちを改めて実感しています。

市民の皆様にとって議会は少し遠い存在に感じられることもありませんが、本紙を通じて身近に感じていただければ幸いです。

新しい議員として学ぶことの多い毎日ですが、市民の皆様の声を市政へ届けるとともに、議会の情報を分かりやすく発信できるように努めてまいります。

(記 西田 一平)

◎この議会だよりは1部あたり38.98円(税込)でできています。